



# グリーン アドバイス

## 家庭菜園に挑戦

れ、霜も降りるので、種まきできる時期ではありませんが、プラスチックフィルムをトンネル状に覆い、密閉すれば、多くの地域（関東南部以西の平たんな温暖地、北関東以北の寒・高冷地では3〜4旬遅れ）で、春一番の小カブの種まきができます。

育て方は、できるだけ早めに図のように1.2m幅のベッドを作り、全面に良質の完熟堆肥、油かす、化成肥料をばらまき、15cmほどの深さに耕し込んでおきます。そしてくわ幅よりやや広めにまき溝を3列作り、溝底を平らにならします。畑が乾いていたなら、溝の外

土、くわの背で軽く填圧（てんあつ）し、全面に灌水してからフィルムをトンネル状に覆い、裾には十分土を掛けて密閉し、地温上昇を図り、発芽と初期生育を促します。

発芽して本葉1〜2枚に育ったならトンネル頂部に小穴を開けて換気状態にし、さらに内部が30度を超えるようになったら裾を開けて換気し、温度の上がり過ぎを防ぎます。

育つにつれて、株間が込み合わないよう逐次間引き、灌水も行つて乾き過ぎないように管理します。生育中は2回ほど、列の間に化成肥料を施し、軽く土

に耕し込みます。

間引いた

ものは小さ

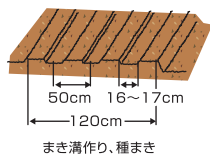
## 生育期間が短く、形もよくそろった小カブ

くの地方品種が生まれできました。

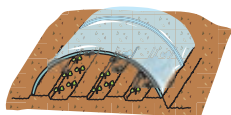
中でも小カブ（金町系）は品種改良が進んでおり、生育期間が短かく、形もよくそろっているので、家庭菜園にはお薦めです。

丸く膨らんだ球（胚軸）の方は大部分が水分ですが、ビタミンCやカリウムが比較的多く、ジアスターゼが含まれているので、胃もたれや胸やけなどにも有効。根よりも栄養価が高いのが葉の部分で、カロテンの他、ビタミン類やカルシウムなどにも富むので、有効に使いましょう。

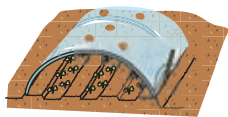
2月は、初旬に立春が訪れるとはいえ、平年なら1月下旬からの寒気の厳しい時期です。最低気温もこの頃に現



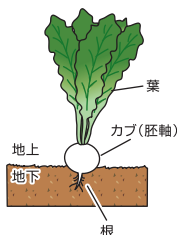
まき溝作り、種まき



本葉1〜2枚開くまでは裾を土で覆い密閉しておく



頂部に穴を開けて換気する。気温の上昇につれて裾も開ける



板木技術士事務所 ● 板木利隆